

# 台北市福德平価住宅における高齢居住者の居住実態と住意識に関する研究 その1 居住者意識からみた住宅環境の問題点およびその検討

○謝嫣婷\* 今井範子\*\* (\*奈良女大・院, \*\*奈良女大)

【目的】1920年代以後、台湾の公立の高齢者居住施設は救済的なイメージを保有してきた。現在台湾の高齢化(8.5%)は急速に進んでおり、公立の高齢者居住施設は高齢化への対応を早急に図ることが重要である。そこで、本研究は居住者の居住実態と住意識に着目し、施設における居住空間および生活支援機能の向上を目指すことを目的とする。その1では、居住者の居住空間に対する意識と評価から、空間的な問題点を把握し、施設の空間改善と整備、ひいては、居住水準の向上に資することが目的である。

【方法】2000年8月に「台北市政府社会局」と「福德平価住宅のスタッフ」に聞き取り調査および観察調査を実施した。さらに、居住実態を把握するため、2000年12月に67名の居住者に対し、居住実態と住意識に関する聞き取り調査を実施した。

【結果】居住者の居住空間に対する意識と評価から、以下のような問題点と課題が指摘できる。住戸空間について、①設備空間としての浴室が狭いため、入浴行動は不便になる。また、平面計画において、浴室と台所が隣接しているため、台所の床面が濡れやすいことがわかり、転倒防止のため、浴室と台所の床面に滑り止めの仕上げが必要である。②部屋内の緊急ベルに対する意識は9割の居住者が使ったことがないが、半数以上が設置されていることで安心感を持っている。③収納空間が計画されていないため、多くの居住者はごみ置き場などから棚や箱をもらい、それを収納用に利用する。居住空間に収納空間の確保が必要である。共用生活空間について、①身体状況により階段を上ることがきつい居住者は6割にのぼる。今後福德平価住宅の高齢化に伴い、エレベータの設置が重要である。②廊下に多くの居住者が椅子を設置し、その椅子を利用し、近隣との交流をとっていることがわかった。今後の共用空間の計画において、身近なコミュニケーション空間の必要性が指摘できる。